

令和6年度 第1回江別市未来型政策検討会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和6年5月17日（金）14時00分から15時00分まで

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：明神知委員長、北川裕治委員、龍田昌樹委員、布施望委員、
佐藤誠一委員、川口圭太委員、渡邊慎哉委員、干野里佳委員（計8名）

欠席者：佐藤貢委員、樋口裕晃委員、浅井貴也委員、佐藤和夫委員
鈴木秀明委員（計5名）

事務局：三上企画政策部長、伊藤次長、中島デジタル政策室長
天明屋参事、菅野参事、鈴木主査、馬場主査、丸山主査、初瀬尾主任
（計9名）

傍聴者：なし

会議概要

1. 開会

2. 議事

（1）デジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）の採択結果について

●事務局

資料1をご覧ください。

デジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）の申請事業については、2月の当委員会でも説明したが、採択事業一覧に記載のとおり、申請した5つの事業全てが採択されたので報告する。

一覧中、事業名及び事業概要については、前回会議の内容と重複する部分も多いため、説明は割愛するが、事業費欄については、上段が事業費、下段のかっこ書きの数字が交付金の額となっており、事業費の半額がデジタル田園都市国家構想交付金で賄われていることを示している。

次のページをご覧ください。

採択された5事業については、今年度中の実装に向け、担当課において準備を進めているが、そのうちいくつかの事業内容について、実際に使用するシステムの画面等を用いて紹介する。

1つ目は「救急業務デジタル化事業」。

左の画像は、救急隊員が傷病者の状態をタブレット端末に入力している様子を表しており、傷病者の基本情報に加え、その場で患部の画像を撮影したり、タッチペンで手書き情報を追記することも可能となっている。

このようにして入力した情報については、右の画像にあるように、複数の医療機関へ同時送信することで、救急隊員と医療機関がリアルタイムに共有することが可能となっている。

本システムの導入前は、救急隊員が傷病者の情報を手書きでメモを取り、候補とな

る医療機関に1件1件電話をかけ、受け入れの可否を確認していた。

本システムの導入により、医療機関が受け入れの判断を下すまでの時間が短縮されると共に、救急隊の報告書作成等の負担も軽減され、救急活動全体の効率化が期待される。

次に、「学校教育DX推進事業」のAIドリルについて説明する。

現在、市内小中学校の児童生徒について、文科省が進めるGIGAスクール構想により、1人1台、タブレット端末が支給されている。

資料中段にある<児童操作画面>は、児童がタブレット端末で算数の問題を解く画面のイメージであり、余白部分には手書きで途中式なども記載することができる。

資料下段にある<教員管理画面>は、各児童が入力した内容について、途中式等も含めて一括で確認することができ、データ集計機能により、正答率などを表示することができる。

このように、児童生徒に対しては、個人の習熟度に応じた個別最適な学習を支援することで、学力の向上を目指し、教員に対しては、宿題の印刷や採点業務の効率化を進めていくことで、児童生徒と向き合う時間の確保、教員の時間外業務の短縮を図る。

なお、その他3事業についても、当初想定していたスケジュールどおりに準備が進められていることを確認しており、今年度中には、各種サービスが実装される予定である。

●渡邊委員

救急業務デジタル化事業は市内の病院限定か。厚別区等の近隣の病院も対象か。

●事務局

現在は江別市立病院、溪和会江別病院、谷藤病院の3つの市内医療機関のみで実装している。その他の地域は次年度以降検討を進めると聞いている。

●明神委員長

自治体ごとに消防署の管轄エリアが決まっているのは、昔からの問題である。ぜひ検討を進めてほしい。

(2) 今後の江別市未来型政策検討委員会について

●事務局

資料2及び補足資料をご覧ください。

まず、【1 概要】について、これまで本委員会では、未来型政策の検討やデジタル技術をキーとした施策等について協議いただき、令和5年9月には「江別市DX推進方針」の策定にも携わっていただいた。

その一方で、市では「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」という、国の地方創生の考え方に基づく総合戦略を令和2年3月に策定している。

そして、市の総合戦略の上位戦略となる国の総合戦略が、令和5年12月にデジタルの力を活用して社会活動の解決を目指す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に改定された。

この改定で、国は、地方創生の考え方自体に変更はないものの、その手段としてデジタル技術を活用していくことを明確にしている。

このような国の流れを踏まえ、当市としては「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を所管する会議体と、「江別市DX推進方針」をはじめとしたデジタル技術全

般に関する事項を所管する本会議体を発展的解消することとし、新たな会議体にて「（仮称）江別市デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定や「江別市DX推進方針」の進捗管理等を行っていただきたいものと考えている。

このような状況を踏まえ、【2 協議事項】であるが、本日、主にご意見を頂戴したい事項を記載している。

1点目は「今後の江別市未来型政策検討委員会について」。先ほどお伝えしたような状況から、本委員会と、市の総合戦略を所管する会議体である「まち・ひと・しごと創生有識者会議」とは、発展的解消することとし、両会議体の所管事項を持ち寄った新たな会議体を再編成することとしてはどうかと考えている。

2点目以降は、1点目の会議体の再編成を踏まえた協議事項となる。

2点目は「新たな会議体の規模について」。現在、本委員会は市民公募2名を含む13名で構成しているが、新たな会議体においては何名程度の会議体が望ましいか、という部分が論点となる。人数が多すぎると活発な意見交換が行いづらくなり、逆に、少なすぎると多様な意見を得づらくなる。

事務局としては、本委員会と同規模程度が良いと考えているが、委員の皆様からご意見等ありましたら頂戴いたしたいと考えている。

3点目は「委員構成について」。様々な立場の方の意見を反映することが重要だと考えるので、【産・学・官・金・労・言】という区分での人選を基本とし、これに市民公募委員を加えた上で、国の動向を踏まえ、デジタル技術を活用したまちづくりに精通している者を加えてはどうかと考えている。

4点目は「任期について」。新たな委員会で協議いただく事項の1つに「（仮称）江別市デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定作業があり、当該総合戦略の計画期間は5年間と想定されている。その中で、新たな会議体の委員の委嘱期間を、現行と同様に2年とすべきか、3年にすべきか。本委員会の委員を担っていただいた皆様を感じた負担感等も考慮しながら、ご意見を頂戴できればと思う。

以上が、本日の委員会で委員の皆様からご意見を頂戴したい事項となり、頂いたご意見については、新たな会議体を編成する際の参考意見として取り扱わせていただきたい。

なお、参考資料として「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「デジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像」を事前配付しているので、併せてご確認ください。

●明神委員長

まず（1）の当委員会を解消し、新たな会議体を再編成する案について、何か意見・質問はあるか。

《意見・質問なし》

●事務局

続いて【2 協議内容】（2）～（4）の規模、委員の構成、任期について意見・質問はあるか。

●龍田委員

（2）から（4）それぞれにおいて想定する根拠が重要である。例えば、なぜ12名から13名程度を想定しているのか、学識経験者等の各分野から構成される必要があるのは、どのような意見が聞きたいからなのか。

細部までしっかり考えたうえで新たな会議体の構成を検討してほしい。

委員構成についても、ただ満遍なく関係各所から選出するのではなく、どのような意見が必要かを考えたうえで、どこに依頼するかを考えてほしい。

●事務局

次期総合戦略は、地方創生の取組にデジタルの力の活用を加えて策定するため、選出はデジタル分野及び地方創生に係る幅広い各分野から選出し、様々な意見をいただきたいと考えている。

●龍田委員

団体・企業から選出するというより、個別具体的な方々を直接選出したり、各世代に分けた方が広く意見を得られるのではないかと。

例えば、団体・企業に所属していないデジタルの恩恵があまり受けられていない高齢者、携帯電話を所有していない方、自宅にインターネットが引かれていない方からも貴重な意見を得られる。

エンドユーザーの意見も吸いあげられるような会議体を望みたい。

●事務局

どのような人選にするかも含め検討中であるため、参考にさせていただきたい。

●渡邊委員

龍田委員の意見に賛成である。

先に人数を決めるのではなく、分野ごとに専門的な知識のある方々を数名ずつ集めて構成するボトムアップなつくりをしてはどうか。

ただ、世代ごとに分けるというのはいい考えだと思うが、会議に参加すること以外で高齢者等から意見を得る方策はあると思う。

●事務局

産・学・官・金・労・言の有識者と記載しているのは、まち・ひと・しごと総合戦略を策定する際に、国から示されていた分野であり、そちらを基に案を作成した。

しかし、龍田委員と渡邊委員の意見のとおり、多様な意見を計画に反映させることが重要であることから、新しい会議体の参考とさせていただきたい。

●渡邊委員

提案にある「産・学・官・金・労・言」という分野ではなく、教育・防災・農業・医療など、江別市が関わる様々な分野から選出するのも良いのではないかと。

●佐藤（誠）委員

例えば自治会でDXを進めようとする場合、異なる方向を向いている人たちが集まると、一つの方向に一緒に進んでいけないので、ある程度一定の方向性や理念が必要である。

市の事業も同様と思う。大きな方向性を決める会議体の他に、分科会が様々な存在するのならわかるが、主となる会議体で異なる方向を向いている人たちが集まると、まとまらない可能性も出てくると思う。

●明神委員長

多様な意見を取り入れようとする総花的になり、差し障りのない戦略になってしまう懸念がある。

江別の特色がでるものを作るためには、リーダーシップをもって、いろんな人を繋いで引っ張っていくような人がデジタルの分野においては殊更に必要だと思う。例えば、DXに取り組んでいない企業・組合の中でも何かやろうという気持ちを持っている人たちのような、「e スポーツなどでのまちおこし」のようなことを目指していった方がいいのかと思う。

●布施委員

これまで出た意見には概ね同意する。

その上で、人数ありきでは駄目だというのはもちろんだが、人数が多すぎて、会議の中で会話が伝わらないということは問題だと思うので、議論のしやすい人数で検討していただきたい。

構成については、事務局案とは異なった様々な分野から、異なる意見が集まることでも良いのではないか。

任期については、策定する計画の区切り等も考慮しながら検討していただきたい。

●明神委員長

どのようなものを作りたいかという目的が先にあって、委員の構成が決まり、その後人数や任期が決まるものだと思う。

●北川委員

委員の皆さんの意見はそのとおりである。

一方で、新たな会議体では恐らく市が作った案を審議することになると思うが、あまりに多くの方々の様々な立場からの意見があまりにも多くあると審議も進まない。市が案を作るまでに、アンケートなどの手法を利用して、様々な視点の意見を網羅した案を作り、それを議論するというのが現実的ではないかと思う。

●事務局

まち・ひと・しごと総合戦略を策定するときもワークショップを実施した。

次期総合戦略を策定する際にも、新たな会議体の他に、例えば子育て世代や学生など幅広く意見を聞く仕組みを設けていきたいと考えている。

●干野委員

私が勤務している市民活動センターには70代・80代の方が次々にインターネットで予約した図書を受け取りに来るので、高齢者がデジタルに弱いとは一概に言えないと思っており、どのような世代性別の方でも、意欲があれば、自身で学習して取り入れられると感じている。

そのようなことも考慮すると、様々な立場の方の意見を参考にする仕組みがあれば良いのではないかと思う。

●川口委員

示された6分野は市が特に意見を聞きたいと考えている分野なのかと思う。

様々な方の意見を集約し、新たな総合戦略に反映させることは大事なことだが、会議を進める上では、ある程度、分野を絞り込み、代表的な意見を聞くという考え方もあると思う。

市が新たな総合戦略の案を作る際に、インターネットを使っていない方や、子どもから高齢者までの広い世代など、多くの方の意見を吸い上げていただければ、示された委員構成でも良いと思う。

●明神委員長

色々な意見が出たが、多様な意見を集めるということに加え、何らかの分野でリーダーシップを持っている人を引き込み、多様な意見を集約した上で、一つ何かの仕組みに仕上げることも必要。

それらが決まると、任期や会議の規模はおのずと決まってくる。

ワークショップ等で意見を吸い上げるということもよいと思う。

また、産・学・官・金・労・言という各分野は全国で用いられる区分なので、江別ならではの多様な意見を得られる区分も検討してほしい。

●事務局

これから新たな総合戦略を策定するにあたって幅広い意見を集めながら進めていきたい。また、その他についてもいただいた意見を参考に検討したい。

●渡邊委員

議事（１）について、５事業全てが採択されたと報告があったが、申請する前に申請する事業を選定するのがこの委員会のやるべきことではなかったか。申請した報告を受けても、委員はアイデアも出せず、意見が反映されることもない。

各部局から申請事業の話が出た際に、専門家の方も交えてこの委員会で意見交換をした後に申請するという順序が望ましかったと思う。

●事務局

本来であればこの委員会で議論してから申請する流れが望ましかったが、庁内での調整や、交付金の申請スケジュールの報告が中心となってしまった。

今後、新たに委員会を開催する際にはタイミングなども考えながら運営したい。

●明神委員長

各部局からの意見だけではなく、ユーザーを中心においたシステムの構築が肝要である。その意味では多様な分野とのワークショップ等も必要になってくるかもしれない。

これまでに出了意見を踏まえて、市においては新たな会議体を編成する際の検討材料としていただきたい。

3 その他

●明神委員長

本委員会は今回の会議をもって任期満了を迎えるため、委員の皆様から一言いただきたい。

●渡邊委員

委員会がアイデアを出して、それを具現化するというものではなく、決定した事項について報告を受けて、それを追認するというものになってしまっていた。

全体を通して、アイデア出しや、実現に向けた議論が行われなかったので改善して

いただければと思う。

●川口委員

今後、新たな会議体でデジタルを活用して社会課題の解決に向けた取組を進めていくなかで、高齢者や障がい者を含め、あらゆる人にやさしく便利で活用できる取組が進んでいくことを期待する。

●佐藤（誠）委員

自身の自治会で少しずつＩＣＴ化を進めている中で、この委員会に参加し、市がＤＸの取組を進めると聞いて嬉しい気持ちだった。

市のＤＸはこれからも色々な可能性があると考えているので、引き続きお願いしたい。

●干野委員

他市町村の地方創生の関係者と話すと、江別市は、デジタル田園都市国家構想交付金が満額採択されたことで、他市町村からとても注目されている。いろいろ課題はあると思うが、今後さらに発展させて、より良い未来に繋げていただきたい。

●布施委員

農業分野から参加していたが、当委員会は自身の学びの場にもなった。今後も参加できることがあれば、さらに活躍できるよう頑張りたい。

●龍田委員

デジタル田園都市国家構想交付金の申請が全て採択されたこと自体が珍しいケースだと思う。その意味では、江別市は期待されていると思うが、この委員会自体は議論を交わすような場に結果的にならなかった。

新たな会議体を進めていく中では、例えば、ワークショップのような取組に我々を配置していただけると、様々なアイデアを出すきっかけになれるのではないかなと思う。

●北川委員

幅広い市民の希望や意見と、行政側の都合とに折り合いをつけるのは難しいが、その先には国から金銭的な供給がある。

そのお金をうまく活用することが大事であり、そのためには市民意見や尖った意見を加味しつつ進めていくと良いのではないかな。

●明神委員長

デジタル技術は画期的に進歩している。そのため、例えば生成ＡＩを活用しながら本委員会を進めていくというのも一つの手かもしれない。そのようなものも参考にしながら、江別ならではの特徴を出して委員会を進めていくというのも良いのではないかな。

また、江別市の規模感であれば、総花的に事業を行うことは難しく、絞る必要があると思うが、今後はその絞り方自体に新たな手法を用いてはどうかと思う。

●事務局

本日は、公私ともにご多忙の中、未来型政策検討委員会にご出席いただき、心より感謝申し上げます。

本日の委員会をもって任期中の会議が終了となることから、一言お礼の挨拶をさせていただきます。

委員の皆様には、令和4年から2年間にわたり、デジタル技術を活用した当市の未来型政策の検討にご尽力頂き、心から感謝を申し上げます。

当委員会で委員の皆様方にご審議いただいた内容等は、今後の当市のデジタル化を進めるにあたり、大変貴重なものであり、2年間という期間ではあるが、デジタル化の重要性を再認識するとともに、市内関係機関等との連携を深めながら検討を重ねることができた結果、頂いたご意見を参考に「江別市DX推進方針」を策定することができた。

この方針は、当市のデジタル化を大きく前進させるものであり、市役所だけではなく、市内関係機関が連携し、委員会で議論された内容を具現化していくことが、大変重要なことだと考えている。

一方で、デジタル技術の進歩は非常に速く、目まぐるしく日々状況が変化していくものである。当市では、引き続き「江別市DX推進方針」に基づき、国や社会の動向も注視しながら、行政や地域のデジタル化に努めていきたいと考えている。

結びとなるが、これまでの委員の皆様方のご尽力に対し、改めて感謝を申し上げますとともに、本市のさらなるデジタル化の推進に向け今後とも様々な機会を通じて、御協力を頂きますようお願い申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

4. 閉会